

山連教第63次
教育研究集会報告書

東山

「父」の心情を読み取り，考えを交流しよう
—登場人物の言動から読みを深め，
知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ—

- ・「父」の立場で書き換える
- ・自分の家族観を見直す

1

読

山連教東山梨地区

甲州市立松里中学校・平山直樹

東山梨地区日本語教育研究会報告

1 研究テーマ

思考力・判断力・表現力を育む日本語指導～言語活動の充実を通して～

2 研究の経過と概要

東山梨地区日本語教育研究会では、生徒の実態をふまえ23年度よりテーマを上記のように設定している。情報があふれている現代社会において、自分で考え判断して情報選択していくとともに、より良い人間関係を築いていくための表現力を身に付けさせていくことは、日本語指導を行っていく上で必須であると考えます。

本部会は小学校との二部会で研究体制をとっている。前半はそれぞれの部会、後半は共同で授業案検討、研究授業後の話し合いを行っているが、互いに児童や生徒がどのような過程で力をつけていくのか知ることは、大変有意義である。また合同で、講師を招聘して学習会を行ったり、研修に行ったりすることもあり、小中の連携をこれからも深めていきたい。

3 今年度までの授業実践の経過

年 度	授 業 実 践 の 内 容
22年度	<ul style="list-style-type: none">・過程を大切に作文を書こう マインドマップを使って、題材探しや構成を指導することを目指した授業実践。作文を苦手とする生徒の着想・構想に的を絞った実践である。 <ul style="list-style-type: none">・おとやようすをあらわすことば ～言葉のおもしろさに気づき、考えながら読む力～ 小学校との共同研究。小学2年生の擬態語・擬音語を動作化・言葉あそびを取り入れて学び、読書活動へのつながりを図っていく実践。
23年度	<ul style="list-style-type: none">・写真の紹介文を書こう 23年度～比喩や慣用句の言い回しを理解し、文章の中に効果的に生かす力～比喩を効果的に取り入れていくと、書かれていることが生き生きと伝わってくる。生徒同士の交流により、書くことの意欲が高まった実践。 <ul style="list-style-type: none">・未来の案内文を書こう 一書いた文章を読み合っって意見を述べる～日常生活の中から材料を集め、意見交流を通して自分の考えをまとめる力～ 小学校との共同研究。対象は中学1年生で案内文の形式を学び、将来の夢や職業を題材として案内文を書く実践。生徒にとって題材が適切であった。
24年度	<ul style="list-style-type: none">・敬語を生活の中に生かそう 24年度～敬語の働きについて知り、生活の中に生かす力～ ロールプレイングで、場面に応じた使い分けを考えたり身につけさせたりすることを目指した授業。言葉が「気持ち」を伝えるものだと再確認した生徒達。 <ul style="list-style-type: none">・子どもたちのコミュニケーション能力を育むために 小学校との共同研究。互いが尊重されるような形で話し合うことのためにグループ編成や聞く側のスタンスについて考えた。

4 今年度の研究の内容について

(研究計画)

	日・曜日	内 容	司 会	記 録	場 所
1	5 / 8 水	研究テーマと役員の決定	大和中	大和中	塩山南小
2	5 / 1 5 水	研究の方向性と授業者の決定	山梨南中	笛川中	山梨南中
3	6 / 5 水	夏・授業案検討①	笛川中	山梨北中	山梨南中
4	8 / 5 月	夏・授業案検討②	山梨北中	塩山中	山梨南中
5	8 / 3 0 金	夏・統一授業研	塩山中	山梨北中	松里中
6	1 0 / 2 火	秋季教研 レポートの内容について	山梨南中	勝沼中	塩山南小
7	1 1 / 2 7 水	県教研報告 冬・授業案検討①	勝沼中	大和中	塩山中
8	1 / 1 5 水	冬・授業案検討②	大和中	山梨南中	塩山中
9	2 / 5 水	冬・統一授業研	山梨南中	松里中	塩山中
10	2 / 1 2 水	研究のまとめ	松里中	塩山中	山梨南中

9月に松里中学校2年生で行われた授業は、

「父」の心情を読み取り、考えを交流しよう

～登場人物の言動から読みを深め、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ～
 ということで、『字のない葉書』を通しての実践であった。ここでの言語活動は、当時の状況や家族構成を捉えたうえで、父親の立場になって場面を書き換えるという学習である。「私（筆者）」の視点で書かれた文章を「父」の視点で書き換えることは、「この時、父親はどのような気持ちだったか」と聞くよりも深く心情を考えることができ、心情の読み取りに書き換えの手段が有効であることがわかった。

また、指導が必要な生徒への個別対応など学級の実態を把握し、その対応策として「指導のステップ」「グループ班（4人・5人）の活用」「色を使った配布プリントの見分け方」が紹介された。そんな中で、授業における学習リーダーが育っていることが感じられ、全員がわかる指導をどう仕組んでいくかという点でヒントを得ることができた。

今後は2月に塩山中学校での実践が予定されている。

5 本年度研究部員

広瀬真次 （塩山北中）

渡辺良仁 切金理恵子 広瀬康子 （山梨南中）

武井善史 （笛川中）

倉田憲一 丹澤基予子 厚芝瑞穂 中島幸香（山梨北中）

数野 透 樋口みゆき （塩山中）

杉田由之 平山直樹 （松里中）

山下栄子 依田久幸 （勝沼中）

鮎澤智美 （大和中）

はじめに

目指す言語能力を「『父』の心情を読み取り、考えを交流しよう～登場人物の言動から読みを深め、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ～」と設定し、「父」の心情を読み取った上で、家族という普遍的なテーマを位置づけ考えを交流し深めることを目的とした。

具体的には、「字のない葉書」の二つの場面において、父の立場になって書き換えを行うことで心情読解をする実践、最後に、自分自身の家族を見つめ直して、考えをまとめて発表し交流する実践を行った。

第2学年 国語科「読むこと」学習指導案

指導者 甲州市立松里中学校 平山直樹

1 単元名・目指す言語能力

「父」の心情を読み取り、考えを交流しよう
～ 登場人物の言動から読みを深め、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ ～

C領域「読むこと」(1)

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や経験と関連付けて自分の考えを持つこと。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1) イ言葉の特徴や決まりに関する事項(イ) 事象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

2 教材名

『字のない葉書』(光村図書2年)

3 生徒の実態

第2学年B組、男子13名、女子12名、計25名の生徒が在籍している。

多くの生徒が授業に対して意欲的であり、既習事項を確認するときには積極的に手を挙げる。しかし、基本的生活習慣や基礎学力の定着における二極化が明確であり、定期テストの結果を見ても、平均点付近の人数は少なく上位と下位に半分ずつ生徒が集まっている状況がある。国語科の授業でも、発問の意味を捉えることが困難な生徒が複数いることから、発問後に机間巡視を行い個別に説明するというステップを踏んでいる。このような課題克服のために、昨年度から生活班(4人班×5、5人班×1)によるグループ活動を授業の中に多く取り入れてきた。

昨年度、『にじの見える橋』『大人になれなかった弟たちに……』等を通して、第1学年「読むことC」(1)ウ「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」オ「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」に関しては重点を置いて学習してきた。このことについて多くの生徒は、登場人物の言動、情景描写の読み取りが作品理解に大きく

影響すること、また、仲間の考え方を共有する過程において読みが深まるということを実感している。しかし、明確な課題設定がなされなければ、そのような観点をもって主体的に読もうとする生徒は少ない。

全国学力・学習状況調査における本県の結果からも、C読むこと領域の問題についての課題が多く挙げられ、特に「表現の仕方・構成や展開・内容把握や要約に関すること」、「物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え自分の考えを書くこと」(新学習指導要領 C読むこと イ、ウ文章の解釈、エ、オ自分の考えの形成)については、言語活動の充実によって、基礎的・基本的な知識・技能を活用することで思考力・判断力・表現力等を図っていくための授業改善が求められている。また、山梨県学力把握調査の結果を見ると、本校では「4三;場面の展開を捉えた上で、会話から登場人物の心情を読み取ることができる」の正答率は県平均との差異がないものの、無回答率は高く、本学年の二極化を象徴するような結果となっている。

このような現状を踏まえ、本単元において、登場人物の言葉や行動が話の展開やものの見方などにどのように関わっているかを読み取る力、文章に示されている書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり、自分の問題としてとらえたりする力を、グループ活動の中で広く定着させることができるような指導をしていきたいと考えている。

4 指導の内容と言語活動,教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

「読むことC」の言語活動例に「(2) 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。」とある。今回は当時の状況や家族構成を捉えたうえで、父親の立場になって場面を書き換えるという学習を通して心情理解を深め、その後、自分の家族に対する価値観と照らし合わせるという場面を設定した。そのため、作品に対する感想にとどめるのではなく、自分の家族に対するそれぞれの「考え」の交流を図っていきたいと考えた。このことが、各自の家族観を再構築するきっかけとなり、作品の読みを深めるとともに、思考力・判断力・表現力を養い、自らの生き方を見つめ直していこうとする姿勢にもつながっていくことを期待したい。

【本指導計画において意識させたい「5つの言語意識」】

目的意識 「父」の心情をとらえ、自分の考えを深めるために。

相手意識 クラスの仲間に向けて。

方法意識 「父」の立場に立って書き換えを行い、家族に対する思いをとらえ、自らの価値観と比較して考えを書くことで。

場面状況意識 「父」の家族に対する思いに対して考えを交流する場面で。

評価意識 「父」の家族に対する思いをとらえることができたか、自分の知識や経験と関連付けて考えを書き、深めることができたか。

(2) 教材の特徴

本教材は、放送作家であり小説家でもある向田邦子氏の作品であり、筆者が女

学校時代に受け取った父からの手紙や、末の妹の疎開にかかわる場面で見せた父の家族に対する思いや姿が描かれた随筆作品である。戦時下という状況ではあるが、「暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父」が見せた愛情は、家族観という普遍性をもった題材であり、生徒たちの学びの広がり期待できる作品である。

5 指導の目標

- 「字のない葉書」の様々な描写から、筆者の「父」に対する見方と「父」の家族に対する思いを読み取ることができる。【指導事項C-イ】
- 心情理解から、自分の価値観や知識、経験と関連付けて考えをもつことができる。【指導事項C-エ】

6 指導計画と評価計画

(1) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①登場人物の言動から心情理解をして、自分の考えをもとうとしている。	①文章全体と部分との関係、登場人物の言動の意味などを考え、理解を深めている。(イ) ②作品に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。(エ)	①抽象的な概念を表す語句や多義的な意味を表す語句などについて、それが文章の中で果たしている役割を考えながら読んでいる。(イ(イ))

(2) 学習過程の概要

言語活動	指導事項	重点	主たる学習活動	評価規準
「父」の心情をとらえ、家族に対する自分の考えを交流しよう。	語句の意味の解釈		1. 「自分の家族に対する考えをもつ」という課題を持ちながら「字のない葉書」を読む。	言語①
	文章の解釈	○	2. 前半・後半、それぞれからわかる「父」の家族に対する思いを、「父」の立場で書き換えるという学習を通して読み取る。	関① 読① 言語①
	自分の考えの形成	○	3. 読み取った「父」の心情理解を深め、自分の家族に対する考えを見直し、クラスの仲間と交流する。	関① 読①②

(3) 指導計画と評価計画

	ねらい及び学習活動	指導上の留意点	Aの姿	Cの生徒への手立て
1	<p>○単元の目標，学習の流れをつかみ，前半部分から「父」の人柄・心情を読み取る。</p> <p>・「大人になれなかった弟たちに……」を振り返り時代背景を知る。</p> <p>・「随筆」であることを確認する。</p> <p>・語句を確認しながら前半部分の範読を聞く。</p> <p>・前半部分の「父」の人柄や心情を読み取る。</p>	<p>・自分の家族に対する思いを見つめ直すという視点を確認させる。</p> <p>・覚えている「状況」等を発言させ，全体で共有させる。</p> <p>・「国語の学習」の資料を使って再度確認させる。</p> <p>・「父」の人柄や心情を読み取れる部分を意識し，線を引かせながら聞かせる。</p> <p>・再度，日常や手紙の中での「父」の様子から，人柄や心情を読み取れる部分に線を引き，父の人柄を読み取らせる。</p>	<p>・1年時の学習を振り返り，意欲的に発言している。</p> <p>・父の言動，手紙の様子から主体的に人柄・心情を読み取っている。</p>	<p>・他の生徒の発言を補足し，資料を確認させる。</p> <p>・教科書「枕草子」の振り返りをさせる。</p> <p>・作品中の具体的表現を示し，考えさせる。</p> <p>・全体でまとめたものを，ワークシートにまとめさせる。</p>
2	<p>○後半部分を読んで「妹」の疎開についての家族や「父」の思いを読み取る。</p> <p>・「妹」の疎開に向けての，家族それぞれの思いを読み取る。</p> <p>・「父」が「下の妹」の疎開を準備している部分を，父親の立場で書き換える。</p>	<p>・両親の思い，母の描写から心情を確認させる。</p> <p>・父親視点で，心情表現を書き加えながら書き換えさせる。</p>	<p>・下の妹が疎開に行くに至る状況を理解し発言している。</p> <p>・状況を理解し，自らの言葉で父の心情を表現して書いている。</p>	<p>・他の生徒の表現を参考にさせ，記入させる。</p>

3	<p>○後半部分を読んで、疎開先での「妹」状況と、父の思いをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妹からの葉書」を通して、「妹」の状況と、「父」の思いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉書の中身の変化から、妹の状況を捉えさせる。 ・葉書に込めた父の思いを確認し、それぞれの葉書の変化に対する父の思いを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に妹の状況を捉え、発言している。 ・自らの言葉で父の思いを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉書と状況の変化を板書し、父の心情とともにワークシートにまとめさせる。
4 本時	<p>○「妹」が帰ってきたときの「父」の心情をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「声を上げて泣いた」の場面を、「父」の視点から心情を考えながら書き換える。 ・書き換えた部分をグループで読み合い交流する。 ・書き換えたものを全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「声を上げて泣いた」の部分の直前までの模範例を示し、心情描写を入れて書き換えさせる。 ・仲間の良い表現をメモし、理由を書き互いに交流させる。 ・父の心情を観点ごとに板書しまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に至るまでの父の心情を理解し、自分の言葉で表現している。 ・仲間の表現を評価し、自分の言葉で理由を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでの父の心情の確認をさせ、心情描写を入れる部分を具体的に示して書かせる。 ・交流や全体のまとめを、ワークシートにまとめさせる。
5	<p>○作品から読み取った家族の心情を参考に、自分の家族観と比較しながら考えを書き交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品中の家族の姿と自分の知識や体験とを関連づけて、家族観を振り返ったり比較したりしながら考えを書く。 ・全体で発表し交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品中の家族と自分の家族を比較し、状況や考え方の共通点や相違点を確認し、比較して書かせる。 ・全体で発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる状況の中でも普遍的な家族に対する心情を見出し、主体的に自らの家族観を見直し自分の言葉で書いている。 ・意欲的に発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況・心情それぞれの共通点、相違点を箇条書きで書かせる。

7 本時の指導

(1) 日時 平成25年8月30日(金) 5校時 14:00～

(2) 対象 第2学年B組 生徒25名

(3) 目標 「妹」が帰宅する場面を「父」の立場から書き換え、「父」の心情理解を深める。

(4) 授業の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ	○これまでの学習を振り返り、「父」の人柄や家族に対する思いを確認する。	・前半部から読み取った「父」の人柄、後半部での妹に対する心情を確認させる。	A：学習を振り返り、進んで発言している。 C：ワークシートを振り返り確認させる。
深める	○「妹」が帰ってきたときの「父」の心情を捉える。 ・「妹」が帰ってくる場面での父の心情を、書き換えによって捉えていくことを確認して場面を読む。 ・書き換えのモデル文を確認する。 ・「声を上げて泣いた」の場面を、「父」の視点から心情表現を入れながら書き換える。 ・書き換えた部分をグループ内で読み合い、良い表現をとらえ、理由を書く。 ・グループ内で、メモをとった表現とその理由を交流する。 ・書き換えた文を全体で発表する。	・目的を明確にさせて、音読を聞かせる。 ・「父」の心情を中心に書き換えが展開されるよう確認させる。 ・良いと思った表現、または、自分とは違った観点で心情を書いている部分についてはメモを取らせ、理由を書かせる。 ・グループ内に、全体発表された以外の観点で書かれた心情があった場合は、再度発表させる。	A：場面に至るまでの「父」の心情を理解し、自分の言葉で表現している。 C：「父」の行動や言葉にふさわしい心情を表す言葉を挙げさせる。 A：意欲的に自分の表現を全体で発表している。
まとめる	○全体で出された「父」の心情をまとめる。 ・全体で出た考えを整理し、補足部分はワークシートに記入する。	・自分には無かった観点や表現について、ワークシートにまとめさせる。	C：板書でまとめたものを、ワークシートにまとめさせる。

【研究会より】

「成果」

- ・グループやクラスで意見を言い合うことで、考えが広がる。友達が書き換えたものの良いところを見つけ理由を言ってあげると、本人は書いた以上のものを受け取ることができる。発表し合うことで深まっていた。また心情を理解するのに「書き換え」は有効だと感じた。
- ・父の心情をとらえるときには、行動をとらえて確認することが多いが、見方を変えることで気持ちをとらえられるのだと思った。
- ・2時間目に、違う場面で同じ流れを用いて学習しているので、スムーズにとりくめていることがよくわかった。
- ・よく理解している生徒たちは素晴らしく、わからない生徒への配慮も良かった。プリントの色を変える工夫も良く、グループでプリントを回すときも良い表現をすぐに探せることも素晴らしいと思った。
- ・心情をとらえる学習が難しい生徒ほど、より書くことが大事。今回は、書き換えることがとても有効に働いていた。

「課題」

- ・今回はグループで読み合う授業だったが、グループやクラスで話し合いができるようになるとより良いのではないか。
- ・最後の場面は「父」の気持ちとともに、「父」の言葉で書かせてもおもしろいのではないか。「父」が座って、「娘」の帰りを待っているときの気持ちも大事。
- ・書き換えを深めるためには、意見交換をさせてもよいのではないか。

【 ワークシート解答例 】

1. 茶の間に座っていた私は、下の娘が心配でしょうがなかったので、あわててはだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、身体だけではなく心もけずれて細くなっているような下の娘の肩を抱きかかえ、生きていて良かった、という気持ちと、謝罪の気持ちを込めて声を上げて泣いた。

2. 茶の間に座っていた私は、息子の声を聞き、靴もはかずに急いで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、疎開先でやせてしまった娘の肩を抱き、娘に辛い思いをさせてしまった悲しさや、娘を疎開させてしまったという悔しさがこみ上げてきて、声を上げて泣いてしまった。

3. 茶の間に座っていた私は、あわてて表へ飛び出した。あまりにあわてたので、裸足のままだった。防火用水桶の前で、やせた娘の肩を抱いたとき、娘が生きてくれた事への感謝の気持ちと、反対に辛い思いをさせた事への謝罪の気持ちがこみ上げてきて、私は思わず声を上げて泣いてしまった。

4. 茶の間に座っていた私は、娘が帰ってきたと聞いて、くつをはくことさえも忘れて表へ飛び出してしまいました。防火用水桶の前で、やせた娘の肩を抱き、娘には、幼い時から大変な思いをさせて申し訳ないと思い。声を上げて泣きました。

5. 私は下の娘が帰ってきたと聞いたとたん、体が勝手に動き、すぐに娘のもとに向かった。私はやせた娘を見て、自分は男としての罪悪感を感じ、一人の人間として涙を流した。

6. 茶の間に座っていた私は、娘の帰宅を聞いて、うれしさのあまり裸足のまま表へ飛び出した。そこにいたやせた娘の姿を見て、こんな辛い思いをさせた父としての罪悪感と、帰ってきてくれたうれしさから娘の肩を抱き、声を上げて泣いてしまった。

7. 娘がいつ帰ってくるのか、ソワソワしながら茶の間に座っていた私は、息子の声を聞き、靴を履くことも忘れて表へ飛び出していた。娘はすごくやせていて、今まで辛い思いをさせてしまったことを後悔し、それでも娘が生きてくれたのが嬉しくて、色々な気持ちが入り交じって、その気持ちがこみ上げてきて、私は子どもの前で大きな声で泣いてしまった。

8. 茶の間に座っていた私は、何も考えず裸足で表へ飛び出した。私は、とにかく娘の顔を見たかった。防火用水桶の前で、変わり果てた娘の肩を抱き、安心さとうれしさを感じて、ただ、父として私は声を上げて泣いた。

【 「本時」のワークシート 】

◎ 「妹が帰ってくる場面」を「父が書いた文章」に書き換え、父の心情をとらえよう。
 ◎ 仲間の「書き換え」を読んで、「自分の言葉を使って父の心情が書けている。」と思ったものをメモしよう。そして、良い表現だと思った理由を書こう。

()さん		()さん		()さん		()さん	
理由	表現	理由	表現	理由	表現	理由	表現

書き換えカード ②

◎ 「妹が帰ってくる場面」を「父が書いた文章」に書き換え、父の心情をとらえよう。

<p>【元の文】</p> <p>妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。小さいのに手をつけるとしかる父も、この日は何も言わなかった。私と弟は、ひと抱えもある大物からてのひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べた。これくらいしか妹を喜ばせる方法がなかったのだ。</p> <p>夜遅く、出窓で見張っていた弟が、</p> <p>「帰ってきたよ！」</p> <p>と叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだして表へ飛び出した。防火用水桶の前で、やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。</p>	<p>【書き換え文】</p> <p>下の娘が帰ってくる日、邦子と息子は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫してしまった。妹に食べさせたいと思ったからだろう。いつもなら、小さいものに手をつけるとしかる私も、この日だけは、下の娘に対する二人の思いを感じ、何も言えなかった。邦子と息子は、ひと抱えもある大物からてのひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちゃを一列に客間に並べていた。親元を離れ、毎日寂しい思いとひもじい思いをしていた娘を喜ばせたい、安心させたいという二人の気持ちが伝わってきた。</p> <p>夜遅く、出窓で見張っていた息子が、</p> <p>「帰ってきたよ！」</p> <p>と叫んだ。</p>
---	---